

厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）

分担研究報告書

脳性麻痺発症児の妊娠分娩情報の収集・解析に関する報告

梅原永能 成育医療研究センター 周産期母性診療センター 産科医員

研究要旨

全国 15 地域を対象としたエコチル調査を活用し、産科医療補償制度の補償対象となる重症脳性麻痺患者の推計を行う際の妊娠分娩情報の活用方法について検討した。分娩時に起因すると考えられる脳性麻痺の推定がエコチル調査で収集されているデータから可能かどうかを検討した結果、エコチル調査の情報では困難なことが確認された。そのため、今後追加調査票を関係医療機関に送付し、詳細情報を得られるかが本研究の成否のカギとなるものと考えられた。情報の不足が充足されない場合には、関係医療機関への追加調査や訪問調査なども考慮しなければならないと考えられた。

A. 研究目的

全国 15 地域を対象としたエコチル調査を活用し、産科医療保障制度の補償対象となる重症脳性麻痺患者の推計を行う。また、そのうち分娩時に起因すると考えられる重症脳性麻痺の頻度を明らかにする。

B. 研究方法

エコチル調査は現在も継続中であるため、データは今後も蓄積されていくが、現在までの集計データを元に脳性麻痺を疑う症例を抽出し、旧産科医療保障制度と新産科医療保障制度で対象となる脳性麻痺児の推定を行う。分娩時に起因すると考えられる脳性麻痺の推定がエコチル調査の質問内容から収集可能かどうかを検討する。

C. 研究結果

エコチル調査の分娩時情報では、分娩時に起因する脳性麻痺を判断するには情

報不足であることが明らかとなった。より詳細な分娩時情報の取得のために、エコチル調査参加者における脳性麻痺に関する追加調査表を作成し、追加記入をお願いすることとなった。追加記入をお願いする施設は、分娩担当産科施設や出生児を担当している小児科施設、エコチル担当ユニットが候補となったが、ユニットとの話し合いの結果、対象施設は小児科施設あるいはユニットとした。現在担当施設に調査表を送付し、その回収を行っている段階である。

D. 考察

分娩時に起因する脳性麻痺と判断するにはエコチル調査の情報では困難なことが確認された。今後追加調査票を各ユニットに送付し、詳細情報を得られるかが本研究の成否のカギとなるものと考えられた。情報の不足が充足されない場合には、参加施設への追加調査や訪問調査なども考慮しなければならない。

E. 結論

エコチル調査から分娩時に起因する脳性麻痺の判断はできなかった。追加調査表の送付・回収・解析を今後の研究で行う必要がある。

F. 健康危惧情報

該当なし

G. 研究発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし